

食料経済学特論 I (2 単位)

担当者氏名 高柳長直

◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

経済のグローバル化が進行している中で、フードシステムや我々の食生活は大きく変化してきた。先進国を中心に、農産物や食品の貿易が拡大し、消費者と生産者との間の空間的距離や社会的隔絶は大きくなっている。それとともに、伝統的な食生活から、アグリビジネスや外食企業などが提案する食生活に変化した。その結果、健康問題、地域格差、安全性、食文化の喪失、食習慣の乱れなど、数々の問題に直面している。本演習では、このような課題に対し、経済学的・地理学的観点から、受講生が幅広い知識を身に付けるとともに、論理的に議論を構築することができるようになることを目標とする。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

食料問題	食品流通	食品産業	食料消費
アグリビジネス	マーケティング	法制度	食文化

◆授業の進行等について

	テーマ	内 容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	食料問題の地理学	本演習の目的と授業の進め方	導入
2	農業の工業化論	マクロ経済的工業化, ミクロ経済的工業化	レジュメの作成(8頁)
3	研究方法の検討①	大学院における研究①	〃
4	フード・レジーム論	覇権, H V F, N A C s, アグリビジネス	〃
5	商品連鎖論	世界システム論, 産業連関, 賃労働関係	〃
6	農業立地論	地代, 孤立化, 農業経営	〃
7	産地間競争論	農産物市場, 地域構造, 商品差別化	〃
8	研究方法の検討②	大学院における研究②	〃
9	研究方法の検討③	大学院における研究③	〃
10	グローバル化と農業	輸入自由化, コスト削減, 高付加価値化	〃
11	国際的規制問題	有機農産物, ハーモナイゼーション	〃
12	A F N 論	安全・安心, 社会的距離, 直売	〃
13	ポスト生産主義	フォーディズム農業, 農村空間の商品化	〃
14	地域ブランド	地域団体商標, P G I / P D O	〃
15	まとめ	授業内容を各自の研究テーマと結びつける	報告資料の作成

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名/著者/発行所 (発行年)

フードシステムの空間構造論/高柳長直/筑波書房 (2006)

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名/著者/発行所 (発行年)

授業時に指示する

◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト)

課題のプレゼンテーション 30%, 授業中のディスカッション 70%

◆オフィスアワー

月曜日 12:15~12:50 など適宜

◆その他受講上の注意事項

授業の進行については一例であり、具体的には最初の授業時に受講者と相談の上、決定する。